



# 関 中 学 校 だ よ り

第5号 平成27年11月26日

ホームページアドレス <http://www.seki-j.nerima-ky.ed.jp/>

## 開校40周年記念式典 ～新たなる一步へ～

校長 勝亦章行



開校40周年記念式典の様子（関中・体育館にて）

練馬区立関中学校は、お陰様で、開校40周年を迎え、平成27年10月31日（土）に記念式典を行いました。式典には、来賓・保護者を合わせて190人が参列し、厳粛かつ盛會に挙行されました。

本校が開校したのは昭和50年4月1日、地域の方々の強い願いにより開校した学校です。公立中学校の一角として、地域の方々からの期待に応え、未来の日本を託す生徒を育てるため、新たなる一步を踏み出します。これからのご支援ご協力を、心よりお願いいたします。



生徒三年 吉松彩花さんの言葉



ウインドアンサンブル部 記念演奏

開校40周年を祝う会より新しい校旗をいただきました。

（左の写真の校旗）

### 式次第

- 1 開式の言葉
- 2 国歌斉唱
- 3 練馬区歌斉唱
- 4 校長式辞
- 5 来賓祝辞  
練馬区長  
（代理 教育長）  
練馬区議会議長  
PTA会長
- 6 生徒代表の言葉
- 7 記念演奏  
ウインドアンサンブル部
- 8 校歌斉唱
- 9 閉式の言葉

### 10月 11月 行事予定

日	曜	予定
1	木	都民の日、学校公開週間（始）、生徒会役員立会演説会
2	金	生徒会役員選挙投票
5	月	3年進路保護者会
7	水	学校公開週間（終）
8	木	連合音楽会（練馬文化センター）
9	金	英語検定
10	土	第二土曜授業 1学期終業式 成績相談日
12	月	体育の日（祭日）
13	火	2学期始業式 成績相談日
15	木	2年秋季歯科検診
17	土	中学生ボランティア体験
21	水	合唱コンクール（練馬文化センター）
31	金	開校40周年記念式典・祝賀会
11月		
2	月	3年三者面談始
3	火	文化の日（祭日）
4	水	区中研修会
5	木	DブロックPTA会議
7	土	PTA互選会
9	月	朝礼
11	水	中間考査（音楽・技術家庭）
12	木	中間考査（数学・理科・国語）心 肺蘇生研修会
13	金	中間考査（英語・社会・美術）
14	土	第二土曜授業、避難拠点訓練
16	月	保護司会主催地域集会
17	火	PTA運営委員会 第二回校區別協議会（関町北小）
19	木	生徒総会
20	金	校内マラソン大会（所沢航空公園）
23	月	勤労感謝の日（祭日）
24	火	1年貧血検査
25	水	職員会議
27	金	2年校外学習
28	土	中P連主催駅伝大会（光が丘公園）

本日は、練馬区立関中学校 開校40周年記念式典を挙げるにあたり、多数のご来賓の皆様方のご臨席を賜り、教職員・生徒を代表して心よりお礼申し上げます。  
本校は、昭和50年4月に、石泉地区の各中学校が過密化し、地域の皆様の新しい中学校を開校してほしいという強い願いから、石神井西中学校、大泉第二中学校、石神井中学校の三校の一部を学区として、生徒数435名、11学級で、東京都練馬区立関中学校として開校しました。その後、平成8年に、現在の校名である練馬区立関中学校として、40年間にわたり、この地で、地域・保護者の皆様に支えられ、輝かしい歴史と伝統を築いてまいりました。本校を巣立っていった卒業生は、平成26年度末で、8413人となり、多方面で社会の一員として頑張っています。



関中学校という校名は、どのように定められたかといいますと、開校10周年記念誌にこのような記載があります。開校、前年の昭和49年12月に、区の条令で、仮称「関町中学校」として設置が決定されました。その後、本校の校地を提供していただいた地主の皆様、地元有志の皆様、20名ほど集まっていたいただき、校名について、諮ったところ、「この地は、「関」という地名であったので、「関中学校」がよいのでは、という提案に衆議が一決した」と記録されています。まさしく、この地は、江戸時代から明治にかけて「関村」と言っていた時代があります。石神井川の北側、つまり現在の関町北4丁目あたりを「大関」「小関」と言っていたようです。「小関」という名称は、今は、バスの停留所の名称として残っています。練馬区立関中学校、通称、「関中」 大変、素晴らしい名称です。地元の皆様につけていただいた「関中学校」という校名一つとっても、地域の皆様の思いが込められていると思います。感謝いたします。

さて、開校40周年を迎えるにあたり、本校の歴史を綴った「沿革史」 開校10周年、開校20周年、開校30周年記念誌などを読み、どのように関中が開校し、発展してきたのか振り返ってみました。

沿革史をみると、その1ページにこのような記載があります。

昭和50年度4月1日 東京都練馬区立関中学校として開校(母体校 石神井西中学校) 所在地 練馬区関町六の甲296 (開設については「関町の北部に中学校新設を希望する会」代表、福富三津代 様の運動あり) と記載されています。

「関町の北部に中学校新設を希望する会」とは何でしょうか。この「関町の北部に中学校新設を希望する会」の発足は、本校が開校する昭和50年の4年前に、さかのぼります。当時、石神井西中学校が、昭和50年度に、生徒数1200人、学級数28学級になるとの予想があり、その傾向は大泉第二中学校、石神井中学校でも同じでした。

昭和45年、関町小学校、関町北小学校、石神井西中学校の保護者、教師、区議会議員の方などが集まった教育懇談会で、石神井西中が急速に過密校となりつつあることを知り、その中で、「子どもたちに、よりよい教育環境を」との願いから、「関町の北部に中学校新設を希望する会」が発足し、運動が始まりました。その後、区議会文教委員会で請願が採択され、様々な方々のご尽力があり、4年後の、昭和50年、関中は開校に至っています。

そして、区教委は、昭和48年、関中学校の母体校を、石神井西中学校として、設備、教育内容等の準備を進めていくこととなります。石神井西中学校内に「関町中学校対策委員会」ができ、その陣頭に立ったのが、当時、石神井西中学校の校長であった、宮坂 時義校長です。宮坂校長先生には、自校の学校経営もある中、この関中学校開校のため、設備、教育内容の準備だけでなく、地主の皆様用地買収の要請にもご尽力いただきました。開校準備には、想像を絶するご苦労があったことと推察されます。改めて、感謝する次第です。よって、関中学校の母体校は、石神井西中学校ということになります。

宮坂校長は、昭和50年4月2日に、関中学校教職員が全員集まり、まさしく第1回目の職員会議が開かれています。その職員会議にも出席され、開校までの経緯を説明されました。そして、「立派な校舎がここに完成しましたが、名実ともに立派な学校にしていくのは、使う先生方の熱意である」と挨拶されたと聞いております。

関中学校は、新青梅街道に面した立地のため、道路の騒音防止と、当時は光化学スモッグも社会問題となっていたことも考慮し、校舎の配置にかなり工夫をしています。正門から見て、教室を道路から離して奥に置き、手前に体育館、特別教室を作りました。窓ガラスを防音製にし、新青梅街道に面した特別教室には、当時は珍しいエアコンを入れました。また、プールは、校庭をできるだけ大きく確保するため、体育館の上を作るなど、当時としては斬新なデザインとなっています。

関中学校 初代校長は、宮城盛昌校長先生です。

さて、宮城校長は、開校10周年記念誌に「開校時の思い出」という題で開校当時の様子について書いています。その一部を紹介させていただきます。

「開校時の思い出」 初代校長 宮城盛昌

『最初に学校に行った日でした。「先生、懐中電灯がありません」と警備員に催促され、あわてて校門前の電気具店に買いに行ったことが思い出されます。また、もとの学校から廃棄処分の古い靴箱や机等を運んでくれた先生方もいました。このように何かと不自由な思いをしながら、ほとんど一回の面識も無かった教職員が、一体となって学校づくりをした思い出は、私の長い教員生活の中で最も懐かしい時代です。毎日の仕事に追われ、勤務時間を超越して職員室は、いつも夜遅くまで電灯がついていました。一つ一つ新しいものを創っていく喜びもありましたが、教材教具の整備、事務、会議、生活指導上の問題等、全く、毎日が緊張の連続でした。……』 と、開校時の思い出を書かれています。

また、初代校長の宮城校長は、昭和50年4月2日の、全教職員が集った第1回職員会議の中で、次ぎのように述べています。「教職員一丸となって、新校を創設するという気構えをもち、教師と生徒、生徒同士、教師と保護者と和やかな人間関係を基盤に「和の精神」を重んじる。

また、生徒には、開校の喜びをみんなが味わい、生徒に自分たちの力が、関中を建設するんだという意欲を持たせ、建設的に行動させたい。」と述べたとのこと。そして、「自分の子どもを、ぜひ入れたいという学校にすることが、われわれの態度である」と結んでいます。この初代校長の精神は、今でも、受け継がれていると思います。

開校当初のご苦労と気概がひしひしと伝わってきます。将来を担う生徒の育成に全職員が一丸となって取り組まれた様子がうかがわれます。

さて、昭和 50 年 4 月 7 日 始業式があり、3 年生は、26 人（1 学級）3 年生は、希望による転校でした。2 年生は、183 人（4 学級）でスタート。2 年生の多くが、石神井西中学校、大泉第二中学校、石神井中学校の生徒でした。そして、2 年生は、人数が多いため、4 月 16 日に学級増となり、4 学級から 5 学級になっています。

2 年生は、石神井西中学校、大泉第二中学校、石神井中学校での 1 年生としての生活を送っていた生徒であり、途中から違う中学校に行かなければならないことで、寂しさあり、不安ありと、関中生であるという気持ちになるまで時間がかかったようです。転校して、すぐにクラス替えもあり、2 年生にとっても大変なことだったのです。

同年、4 月 8 日、入学式が挙行され、226 人が入学。6 学級でした。しかし、体育館がまだできていなかったため、関町北小学校の体育館を使わせていただいたとのこと。その日は、残念ながら、天気は雨であり、それでも生徒がそれぞれの椅子をもって入学式の会場である関町北小学校までの道を往復したとのこと。

開校当時は、校舎はあっても、体育館はない。また、木一本もなく、殺風景で温かさが感じられなかったとのこと。そこで、初代校長宮城校長は、「緑化」に力を入れます。在校生（特に 3 年生）教育委員会、地域の皆様、様々な方々のご尽力をいただき、現在のような樹木の多い学校となっています。

その象徴的な存在が、中庭のケヤキです。植樹したときは、人と同じくらいの高さしかなかったケヤキ 2 本が、関中の歴史と共に成長し、今では中庭を覆うような大きさになり、4 階建ての校舎よりも高くそびえ立っています。その雄大な姿は、他を圧する存在感と、温かさを感じます。

関中のシンボルとなっているこのケヤキ。本校の校章にもデザイン化されています。

「春」には、鮮やかな新緑の葉を芽吹かせ、命の息吹を感じさせてくれます。

「夏」には、濃い緑色の葉を中庭いっぱい広げ、登下校時の生徒にやさしく日差しを、さえぎってくれます。

「秋」には、美しく紅葉し、黄褐色の葉と黒い小さな実をつけた小枝が風の中をくるくると舞ながら落ちてきます。

「冬」には落葉し、北風に堪え忍ぶ力強い姿を示してくれます。

季節を感じさせる中庭のケヤキに、生徒は見守られながら、関中学校は、ケヤキの成長とともに、歩んできたのです。

40 周年の節目を迎えたことは、改めて関中学校の存在意義を確かめることにつながり、その輝かしい伝統と歴史を振り返るよき時であります。

「生徒の皆さん」幸運にも、皆さんは、母校である関中学校の開校 40 周年に立ち会うことになりました。先輩たちの築き上げてきた伝統を受け継ぎ、より一層発展させるために努力を積み重ねることが大切です。

関中学校四大大行事（運動会、合唱コンクール、マラソン大会、学習発表会）は、開校当時から四大大行事としてあったわけではありませんが、様々な関中学校の歴史の中で、今、ある行事です。

運動会の全学年のムカデ競走は、本校にしかない伝統種目です。特に各学年の 1 位、2 位による 6 学級による選抜ムカデ競走は、圧巻です。

先日行われた合唱コンクール。それぞれの成長段階で示すことができる最高の合唱が繰り広げられました。

マラソン大会も、今では練馬区内公立中学校 34 校で数校しかやっていませんが、持久力、体作り、我慢して頑張る力を培う行事として大事にしています。

また、3 月の学習発表会では、1 年間の学習の成果の発表の場として、それぞれの作品の完成度の高さに、保護者、地域の皆様から高い評価をいただいております。

そして、全校で取り組んでいる朝読書ハートタイムでは、全校で年間 3000 冊以上読破しています。読書は、学習の基礎であり、新たな知識や読解力を身に付けるだけでなく、豊かな心を培うという点でも、大切な活動だと考えています。様々な面で頑張っている関中生。

こうした頑張りを継続することが大切なことです。

私は、校長として常々、生徒、教職員の皆様に話すことがあります。それは、公立学校の存在理由は何かということ。公立学校は、地域に生活する同世代の生徒が集い、「学ぶ場」であること。「成長する場」であること。そして、公立学校は、「地域の中にあり、地域とともにあり、地域に支えられて存在する」ということです。

1 年生の「練馬区内めぐり」では、練馬区内の様々な施設を巡らせていただきました。また、2 年生の 2 日間の職場体験では、キャリア教育の一環として、地域 80 ほどの事業所のご協力を経て、働くことの大切さを学ばせていただきました。避難拠点訓練では、2 年生全員が参加し、地域の方とともに、万が一の災害発生時には、関中生が地域で大きな力を発揮できるよう学んでいるところです。また、本校ウインドアンサンブル部は、関地区祭での演奏や、地域の様々なイベントで出前演奏をさせていただき、地域の皆様に喜ばれております。地域の中にあり、地域とともにある学校、地域に支えられ存在する学校として、頑張っています。

この 40 年間にこの関中学校に奉職した教職員の数は、330 人以上になります。関中学校の発展のために、校長を中心に一丸となって頑張ってくださいました。関中学校を支えていただきました教職員の皆様、ありがとうございます。

ますます日本は、グローバル化の中で、変化の激しい社会になっていくとき、社会の一翼を担う生徒の育成を、学校は求められています。生徒にまさしく「生きる力」「生き抜く力」を培うことこそ公立学校の使命です。関中学校は、公立中学校として、これからも地域の生徒のために頑張っていきます。

関中学校の開校 40 周年は、一つの通過点であります。来年度以降も、さらに発展し、開校 50 年、60 年と続く学校です。校歌の歌詞の一節に「未来限りなく 青空をかける 翼 関の翼 関中学校の翼」とありますが、関中学校は、翼を大きく広げ、これからも、飛び続けます。

最後になりましたが、関係各位、保護者の皆様、地域の皆様には、日ごろからの、ご支援とご厚情に、改めて感謝申し上げますとともに、今後の練馬区立関中学校に対して、変わらぬご支援、ご協力をいただけますよう、切にお願い申し上げます。式辞といたします。

## 生徒会役員選挙立ち会い演説会（10月1日）・投票（10月2日）

新生徒会役員を決める生徒会役員選挙立ち会い演説会が、10月1日（木）に体育館で行われました。定員7人に対して7人が立候補でしたので、信任投票の選挙となりました。翌日の2日に投票が行われました。台風23号の接近により、予定していた登校時の投票は中止し、午後投票ということになりました。立候補した生徒は、全員信任を得て、生徒会役員として頑張っています。

生徒会長	副会長		役員			
大竹翔馬	吉田修悟	佐藤希咲	長谷川結衣	中川紗希	長谷川直生	内藤 碧



立ち会い演説会（10月1日）



台風23号接近のため、午後実施された投票の様子（10月2日）

## 平成27年度 連合陸上競技大会が、都立駒沢競技場で開催されました。（9月29日）

9月29日（火）練馬区中学校生徒総合体育大会・陸上競技大会が、駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場で開催されました。天候にも恵まれ、素晴らしいコンディションの中での開催となりました。練馬区内公立中学校34校、練馬区内の私立中学校や都立中高一貫校中等部など合わせて、40校が集い、学校対抗で行われました。

共通男子リレー（4×100m）が決勝に進出し、第8位入賞となりました。（関中は、55と56です）



練馬区中学校生徒総合体育大会 陸上競技大会



共通男子4×100mリレー（3走から4走へ）



共通女子1500m走



3年男子3000m走

## 青少年育成関地区委員会主催 中学生ボランティア隊（高齢者体験）

青少年育成関地区委員会すこやか部会主催で、中学生ボランティア隊（高齢者体験）が、10月17日（土）に行われました。本校の家庭科部を中心に有志が参加しました。高齢者疑似体験を通して、高齢者がいかに若者と違って、動きが素早く、簡単にできないことを直接体験しました。この体験を通して、周り的高齢者に対しての接する態度が変わると思います。



説明を受ける関中生と石神井西中生



高齢者体験の器具を装着しているところ



階段を降りているところ（いつもと同じように、自由に動きません）



飲み物を買うため販売機に小銭を入れているところ  
（高齢者用ゴーグル・手袋をしているので、上手にできません）

## 学校歯科医の先生による、秋の2年歯科検診を行いました。

池田先生（学校歯科医）による2年歯科検診を、10月15日（木）に行いました。学校保健安全法では、6月末までに定期健康検査を行わなければなりません。しかし、関中学校では学校歯科医の池田先生より、歯の健康を守るためには、秋の歯科検診を実施することが効果があるとの助言をいただき、2年生を対象に秋も2年生に歯科検診を行っています。

今年は、1年生対象に、12月10日、歯科巡回指導を受けます。内容は、口腔衛生に関する講話とブラッシング実習を予定しています。

## 無料通信アプリ（LINEラインなど）を介しての、生徒間のトラブルに注意して下さい。

スマートフォン（多機能携帯電話）などの無料通信アプリ（ラインなど）を介しての生徒間のトラブルが、本校でもあります。無料通信アプリは、それを使う人が爆発的に増えている現状があります。同時に若者を中心にトラブルが増えています。分かっているとは思いますが、

**関中学校では、携帯電話やスマートフォンを学校に持ち込むことは「厳禁」です。**

しかし、校外での使用により、行き違いや表現が不適切による誤解などで、トラブルが発生してしまうことがあります。もちろん、悪意をもって相手を中傷誹謗する言葉を相手に送ることは、行ってはいけません。何かあれば学校へ相談して下さい。また専門の相談機関もありますので、紹介します。

東京都青少年・治安対策本部青少年課「こたエール」（電話：03-3500-5181）ネット・ケータイのトラブル相談に対応してくれます。

## 避難拠点訓練（11月14日 第二土曜日）で、自助・共助の大切さを学ぶ

関中学校では、11月14日（土）に避難拠点訓練を行いました。本校の訓練の特色は、2年生全員が参加することです。関係諸機関と連携しながら、「自助・共助」を学ぶことを最大の目的としています。つまり、万が一災害が起きて、関中学校が避難拠点として開かれ、地域に住む避難民が関中学校に来たときに、関中生が避難拠点所の運営の手伝いができるようにすることです。いざとなれば、中学生はかなりの力を発揮し、地域のために尽力することができます。

今回の避難拠点訓練では、関町北四・五丁目町会、練馬区防災課、練馬区避難拠点要員、日本ボーイスカウト連盟練馬支部、PTA本部役員、PTAサポーターの協力を得て行いました。

訓練は、学級ごとに、発電機操作、仮設トイレ組立、バーナー操作、アルファ米炊飯、備蓄倉庫内装備品説明、搬送訓練、軽可搬ポンプ取扱訓練を行いました。

練馬区では、区立小学校・中学校99校を避難所と防災拠点機能を併せ持った「避難拠点」として位置付け、地域の区民の方（運営連絡会）と区職員・学校教職員が協働して「自分たちのまちは、自分たちで守る」体制を作っています。関中学校は、避難所であるとともに、給水拠点の指定を受けています。また、各学校には備蓄庫があり、700人分の当面の避難生活に必要な物品があります。

参加した2年生は、訓練を通して自助、共助の意識が高まり、いざ災害が発生した場合は、大きな力を発揮してくれると確信しています。

まず、自分の命を守る。（自助）

次に、身近な人を助ける。（共助）



軽可搬ポンプを使っでの放水訓練



毛布と棒を使っでの担架搬送訓練の様子



バーナー操作訓練（燃料は灯油です）



備蓄倉庫にある非常時の備品について説明を受ける



発電機のエンジンをかける訓練



アルファ米にお湯を入れている作業の様子

## 伝統の「合唱コンクール」(10月21日 練馬区立練馬文化センター大ホール)

伝統ある関中学校の合唱コンクールが、10月21日(木)練馬文化センター(大ホール)で開催されました。各学年の発表、PTA合唱による合唱が行われました。特に3年生の合唱は、どのクラスも素晴らしい合唱でした。さすが3年生です。

特別審査員に、昨年度に引き続き、塚田 誠先生をお招きしました。保護者の方が、1年 129人、2年 166人、3年 162人、地域来賓 23人の計 480人に来ていただきました。ありがとうございました。

学年	課題曲	自由曲				
		A組	B組	C組	D組	E組
1年	let's search for Tomorrow	道	行き先	大切なもの	怪獣のパラード	花は咲く
2年	時の旅人	心の瞳	遠い日の歌	Cosmos	HEIWAの鐘	あすという日が
3年	大地讃頌	生きている証	モルダウ	はじまり	ヒカリ	信じる

1年	Gold 金賞 B組	銀賞 E組	2年	Gold 金賞 D組	銀賞 E組	3年	Gold 金賞 E組	銀賞 C組
----	---------------	----------	----	---------------	----------	----	---------------	----------



Gold金賞の3年E組の合唱 (課題曲：大地讃頌 自由曲：信じる)



特別審査員  
塚田先生の講評



PTA合唱(素晴らしい合唱でした)  
「Bird Eyes 鳥になった瞳」  
「瑠璃色の地球」 「believe」

## 関地区祭（10月24日）にウインドアンサンブル部が出演



関地区祭 素晴らしい演奏を披露しました。

10月24日（土）ウインドアンサンブル部は、関地区祭で、演奏をしました。ウインドアンサンブル部は、第二光陽苑「秋まつり」、アスク保育園の運動会など、地域のいろいろな場で演奏をしています。また、練馬区中学校連合音楽会に、10月8日（木）参加しました。本校開校40周年記念式典では、記念演奏をするなど活躍しています。

## 練馬区保護司会 第5分区 地域集会（11月16日）

保護司会主催の地域集会が、関中学校の視聴覚室で開催されました。東京少年鑑別所 山口雅敏地域非行防止調整官から、保護者を対象に「非行少年の理解と接し方 ～少年鑑別所の現場から～」というテーマで講演がありました。大変、興味ある内容で、また、子育てにも役立つものでした。

講演内容は、  
少年鑑別所とは  
最近の少年非行（振り込め詐欺、ネットと非行、盗みの理解と対応等）  
非行防止のポイント  
少年鑑別所の地域援助活動

### 非行防止のポイント

#### 指導のポイント

- \* 目が届かない行動（夜遊び、不良交友など）ばかりに気をもまない。
- \* 目が届く場での基本的な指導の積み重ねが大事
  - ・あいさつ
  - ・お礼を言う
  - ・あやまる
  - ・約束を守る
  - ・無駄遣いをしない

#### ほめる

- \* どんな問題生徒でも四六時中、問題を起こしているわけではない。
- \* 良くできている行動を見逃さず、ほめる。
- \* ほめる場面を見付けられない場合 簡単に達成可能な指示や課題を与えて、ほめる機会をあえて作る。

#### スマホ、ケータイの正しい使い方

- \* 子どもの成長に合わせたネット利用 必要性、目的を十分に考えること。
- \* 家庭内で使用するルールを設定すること。
- \* フィルタリングの設定

## 全校朝礼で、「いじめ」について校長講話を行う（11月9日）

11月には、「ふれあい月間（いじめ防止月間）」です。そこで、11月9日（月）の全校朝礼で、校長講話として「いじめ」について話をしました。校長講話では、次のような話をしました。

- ・友人の知人で、小中学校で「いじめ」を受けた方が、受けた「いじめ」を忘れていた。が、近隣の方の不幸がきっかけとなり、受けた「いじめ」が思い起こされ、悩んでいるということを知った。
- ・「いじめ」は、心に深い傷を残す。「いじめ」は、心の深い深い底に残っている。（潜在意識）
- ・人の心は、見えない。「いじめ」によってどの程度傷ついているのかも見えない。自分も自分の心がどの程度傷ついていたのかも分からない。
- ・そこで、この紙コップを心とする。心の大きさも人それぞれ。つまり紙コップの大きさも人それぞれである。
- ・この紙コップ、いやなことを言われる。暴力を振るわれる。嫌がらせを受ける……。どんどん、この紙コップ（心）にたまっていく。心は、耐えている。でも、いつかは、紙コップは、「いじめ」でいっぱいになり、ついには、あふれ出る……。このとき、「心が折れる。心が壊れる。」という状態になる。人が心を失えば、失意で何も考えられなくなる。自分が自分でなくなる。最悪には、自らの命を絶つことになる。
- ・「いじめる。いじる。（いじるは、いじめと同じである）」人として止めよう！！

## 教員による救急救命訓練（11月12日）

11月12日の中間考査2日目に、石神井消防署関町出張所の方（4人）を招いて、救急救命訓練を行いました。関中の教員17人が参加しました。

これは、11月20日に校内マラソン大会もあるので、その事前訓練という意味合いがあります。

訓練の内容は、心臓マッサージとAEDの取扱方です。消防署員から説明と模範実技を見せてもらい、消防署員に指導の元、教員2人ペアになって、実習を行いました。

こうした救急救命が必要にならないことが最善ですが、万が一の場合は、訓練したことが役にたつというものです。

関中のAEDは、職員昇降口にあります。



石神井消防署の方から説明を受ける先生方



消防署員による模範の救急救命処置



2人ペアになっての訓練の様子

## 校区別協議会（11月17日）

石神井台小学校と関町北小学校と関中学校の三校は、小中連携・一貫教育を進めています。

11月17日（火）に関町北小学校に三校が集い、授業観察後に分科会を実施しました。

研究主題は、「中1ギャップの解消を図るための小中一貫教育の工夫」です。

分科会は、第1分科会〔教科分科会（国語）教科分科会（算数・数学）教科分科会（外国語活動・英語）〕
第2分科会（小中の交流） 第3分科会（スタンダード 学校のきまり等） です。

また、小中交流の一貫として、10月23日に、石神井台小学校の6年生が関中学校を訪問し、生徒会役員から中学校生活と生徒会活動について説明を受けました。そして、校内施設見学を行いました。

# 後期生徒総会（11月19日）



活発な質疑応答があった生徒総会



大竹生徒会長の挨拶



スローガンは、「We can do it! ~七転八起~」



質問する生徒たち

後期になり、新生徒会役員、新生徒会各種委員となり、本校体育館で後期生徒総会が開催されました。この総会で、生徒会役員会、各種委員会の方針・活動内容が提案され、採択の結果、承認されました。

生徒会のスローガンは、「We can do it! ~七転八起~」です。

生徒会役員会の重点目標としては、次の通りです。

(1) あいさつ運動	「自然な挨拶あふれる関中へ」
(2) 募金活動	「思いやりのある関中へ」(校内及び校外で)
(3) 情報の発信	「身近にある生徒会へ」(ポスター、生徒会新聞などの発行)
(4) 部活動との連携	「部活動に全力で取り組む関中へ」(挨拶運動を部活ごとに)

各委員会のスローガンと関中活性化のためのキャンペーンは、次の通りです。

委員会名	スローガン	関中活性化のためのキャンペーン
3年学級委員会	画竜点睛	集会ダヨ！早く整列キャンペーン
2年学級委員会	Let's Try! ~自信を持って~	靴をそろえようキャンペーン」
1年学級委員会	成長、そして未来へ	服装バッチリキャンペーン 服装が整っている人が多いクラスを表彰します。
整備委員会	周りもきれいに 心もきれいに	
保健委員会	スヤッと快眠！ パシッと快食！ シャキッと快調！	「ハンカチチェック」キャンペーン」

給食委員会	創ります！楽しいおいしい給食時間	「リクエスト権をとるのはどのクラスだ!？」
図書委員会	みんなが気軽に使える 図書館へ	「しおりキャンペーン」 本を10冊以上借りた人に、いじめ防止のシンボルマークをプリントしたしおりをプレゼントします。
放送委員会	け・・・けんめいに や・・・やりとおす き・・・聞きやすい放送	「リクエスト今期も増やしちゃいました」 キャンペーン リクエスト曲を流す期間を1週間から2週間に増量します。
体育委員会	体育委員 PRIDE 燃えろスポーツ魂	「朝練だよ！全員集合キャンペーン」 マラソン大会の朝練の欠席人数を数えて、各学年の少ないクラスを表彰する。

## 校内マラソン大会（11月20日 所沢航空記念公園にて）

11月20日（金）に所沢航空記念公園で校内マラソン大会が行われました。男子5km、女子4kmで行われました。やや雨が心配された天気でしたが、最後まで雨は降らず終えることができました。

自己ベスト更新した生徒も多くいました。このマラソン大会に向けて、体育の時間での練習、自主朝練習を通じた成果を出し切りました。

サポーターをしていただいた多くのPTAの皆様に感謝します。

男女別ベスト8までには、PTAから頂いたメダルも賞状と一緒に授与されました。また、ベスト3までには、開校40周年記念タオルも贈られました。PTAからは参加賞として校名入りのボールペンを頂きました。

女子優勝の長島実桜さんは、三連覇を達成しました。

男子：1位 谷口 翔（2年）19分18秒	2位 山崎成太（3年）	3位 薫田友希（2年）
女子：1位 長島実桜（3年）16分39秒	2位 菊 美穂（2年）	3位 土屋菜々（2年）



準備体操（所沢航空公園にて）



PTAサポータの皆さん（打ち合わせ中）



いよいよ男子マラソンスタート（5km）



男子優勝の谷口くん



女子マラソンスタート(4km)



女子優勝の長島さん(三連覇達成!)



続々とゴール! 着順カードを受けとります



楽しいお昼ご飯の様子(お弁当)

## PTA 教養委員会主催「手打ちうどん作り」



塩水つくりの様子(本校家庭科調理室)



長谷川さんによるうどんの捏ねり方の実演



PTA 教養委員会主催の「手打ちうどん作り」が、9月28日、本校の家庭科調理室で行われました。講師は、大泉学園駅近くになる「手打ちうどん長谷川」の大将の長谷川さん。小麦粉 500g に対して、塩 29g、水 221g という割合で塩水を準備。小麦粉に塩水を入れて捏ねる。簡単そうで難しい。その後熟成させて、切って、手作りうどんの完成! とても腰があるうどん、大変おいしかったです。